

# 活動報告書

報告者氏名： 上嶋早苗 所属：三重県立特別支援学校北勢きらら学園 記録日： 2012年2月25日

## 【対象児（群）の情報】

### ・学年

小学部5年生の男子児童

### ・障害名

脳性麻痺、知的障害

### ・障害と困難の内容

ことばで言われていることが分からない。自分の思いが伝わらない時にパニックを起こし泣く・怒る・座り込む。数語の発語とコミュニケーションカードを少し使えるが、うまく伝えられないことの方が多い。

歩行器の移動が主であり、両手がふさがった状態ではカードの持ち運びがしにくい。

## 【活動目的】

### ・当初のねらい

①歩行器歩行の本児が、コンパクトで軽量のiPhoneを首にかけて近くのコンビニに行き、自分の欲しいものを伝えて購入する。さらに校外学習、家庭での買い物に活用を広げる。

(買い物)

① iPhoneは歩行器でも持ち運び可能

食べることが好き

- ・コンビニの店員に欲しいものを伝え購入する
- ・校外学習の場でも欲しいものを伝え購入する
- ・家庭から買い物に行き、欲しいものを購入する

②本児が使いやすく分かりやすいiPhoneアプリを活用して、スケジュールの理解をすすめる。自ら動ける場面、気持ちの表出をする場面を増やし、自発的コミュニケーション力を高める。

(その他のコミュニケーション)

② iPhoneは音声も出る、シンボルも拡大できる

目で見た方が分かりやすい

- ・自発的コミュニケーション力を高める  
(変更を受け入れる。助けて欲しいことを伝えられるなど)

### ・実施期間

○iPhoneを携帯し、コンビニ（学校から500m程度の位置にある）へ週1回程度行く。

6月～現在まで（合計30回）

○スケジュールアプリを使用して（毎朝と活動ごとに）スケジュールを提示する。（5月～現在継続中）

表出アプリを、好きな活動場面（ブランコ、給食など）を中心に使用する。

### ・実施者

上嶋早苗（教諭）他グループ担任

### ・実施者と対象児の関係

学習グループ担任教員

### ・主に使用したアプリ

「たすくコミュニケーション」アプリ



iPhoneならPCW歩行でも持ち運びができる。

iPhoneなら本児に分かりやすく、使いやすく、相手にうまく伝えられる。

（カードで使用してきたものと同じシステムで表出ができる。シンボルを動かすこと、めくることが簡単に行える）

「たすくスケジュール」アプリ

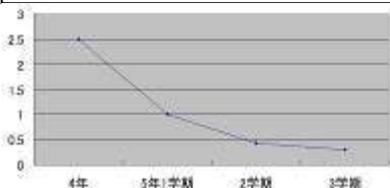
（シンボルが拡大される、音声が出る、シンボルを簡単に移動でき、終わった活動にはレ点を入れられ、分かりやすいスケジュール提示ができる）

【活動内容と対象児の変化】

	①買い物の場面	②その他のコミュニケーション場面（理解・表出）
対象児 事前の 状況	出かけても欲しいものを買うのは周りの大人。買い物すること自体よく分からない。	絵カードで「今」「次」にすることを2枚を提示していた。教員に言われて確認し動いていた。表出は給食の場面が中心で食べたいものをカードで伝えていた。
活動の 具体的 内容	「たすくコミュニケーション」アプリを使用し、週1回、買い物に行く。 対面販売の物の中から選択をする→対面販売以外のものにも広げる→陳列棚から欲しいものを選択する。の段階で選択肢を広げていく。 その他、校外学習（10月）先や家からも買い物に行く。 ※はじめての買い物では、身体的援助を行う。	「たすくスケジュール」アプリを使用して、毎朝、一日分の予定を提示する。 ※終わった活動の印を教員が入れ、次にすることを児童に押しさせる。1週間程度、活動ごとに一緒に確認を行い操作方法の仕方を伝える。 表出では、「たすくコミュニケーションアプリ」を使用して、給食以外の場面でも（日常生活全般）使用する。※必要に応じて身体的援助を行う。
事後の 変化	2回目からはiPhoneアプリで伝えられた。校外学習でも、家からの買い物でも伝えられた。食べたことがないものでも、CMで見て食べたくなったものを購入することもあった。 伝えられ本当に欲しかったものを得る経験をすることで、相手に伝えようとする気持ちが高まっていった。何をするのかを分かると、自ら動けるようになった。人との調整も可能になる。	一日分のスケジュールを自分で確認でき、終わった活動には自分で印を入れられるようになる。 困ったことや助けて欲しい場面でもiPhoneで表出するようになった。

【報告者の気づきとエビデンス】

	①伝えて買い物をする	②その他のコミュニケーション場面（理解・表出）
主観的 気づき	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いくつ、何を欲しいかを伝えて買える。</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・iPhoneは社会一般に広く普及しているので、初めての相手にも違和感なく受け入れられる。</li> <li>・歩行にも影響を及ぼし自ら動ける。</li> <li>※買い物が一人でできるように課題分析を行っている。（取り組み継続中）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・使い方がどんどん広がってくる。</li> </ul> <p>決まった担任以外にも伝えられ、伝える場面も広がる。スケジュールの変更も受け入れられ、自分でスケジュールを組める（シンボルを挿入する）ことが少しずつできるようになる。</p>  <p>タイマー機能を使用して待つ・遊び、やりとりができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・怒ること座り込むことが減る。</li> <li>・iPhoneは肢体の不自由と視覚優位を併せもつ本児の支援に有効である。</li> </ul>

エビデ ンス	(絵カード使用時とiPhone使用時の表出比較)		カード使用時より、表出場面・相手ともに広がり、回数も伸びる。また属性語も含み、「○○先生、たくさん(量)、○○(欲しいもの)、下さい」と4語文で伝えられた。	(学校で怒りの回数の変化)	
	カード時	iPhone時		4年時は、週の半分(2.5回程度)怒っていたのが、iPhoneを使い取り組みをはじめると、怒る回数が週1回程度に減る。自分から動けることが多くなる。	 <p>※ここでの怒りは、泣く・怒る・座り込む・他害等が10分以上続いたものを1回と示す。</p>
	場面	給食、プランコ	家、授業、休憩時間		
	回数	10~15回	35~40回		
	相手	担任	教員、親、店員		
	文構成	3語文	4語文(属性語も含む)		